

憲法改悪を許さない全国署名

各地でこんな取り組みが [56]

2023年5月12日

9条改憲NO! 全国市民アクション 連絡先 メール info@kaikenno.com ☎03-3221-4668

<住所>〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-3-3 太陽ビル 402 市民ネット内

## ◆「大軍拡、大增税反対署名」「憲法署名」の提出は5月19日!

◆ 敵地攻撃・相手国攻撃・全面攻撃  
(敵基地攻撃)能力保有、そのための  
大軍拡にも、改憲にも反対!

◆ 「新たな戦前にさせない!」5・3憲  
法記念日の全国各地の行動を署  
名、対話につなげよう! 「大軍拡、  
大增税に反対する請願署名」、「憲  
法改悪を許さない全国署名」など憲  
法署名で岸田暴政包囲を!!

◆ 5・19国会行動で提出—集めた署名、手持ちの署名は下記へ

《署名の届け先》

● 戦争をさせない1000人委員会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館内

☎ 03-3526-2920

● 憲法9条を壊すな! 実行委員会

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 3-3-3 太陽ビル 402 市民ネット内

☎ 03-3221-4668

● 戦争する国づくりストップ! 憲法を守り・いかす共同センター

〒113-8462 東京都文京区湯島 2-4-4 全労連会館内

☎ 03-5842-5611

● 九条の会

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7-303

☎ 03-3221-5075

## 「新たな戦前にさせない！」決意と運動 列島にみなぎる <1>

憲法記念日各地の行動から

### 北海道 憲法の力 戦争への道必ず止める 「戦争でたたかうな。戦争とたたかえ」

戦争させない北海道委員会は3日、「憲法施行 76 周年STOP改憲！ 5・3憲法集会」を開き、札幌市大通公園に「あらたな戦前にさせない」と 500 人が集いました。

呼びかけ人の池田賢太弁護士、北海道憲法共同センター小内浩共同代表（道民医連事務局長）らに続き、立憲民主党の勝部賢志参院議員、社会民主党北海道連の浅野隆雄幹事長が連帯のあいさつをしました。同委員会の岩本一郎北星学園大学教授は、「憲法は私たちの手中にある。よりよい社会を実現するために憲法をどう生かしていくかは私たち次第だ」と語りかけました。

集会後、「戦争でたたかうな。戦争とたたかえ」と書いた横断幕を先頭に、音楽に合わせて「憲法を大切にしたい」「差別を許すな、人権守れ」「戦争する国づくりに反対」「ハッピーバースデー日本国憲法」とリズムカルに声を上げ行進しました。

### 青森 憲法違反の大軍拡反対！ 13 団体共催の集会でアピール 青森市

青森県九条の会など 13 団体・政党の共催で3日、青森駅前公園で市民集会とデモが行われました。200 人が参加し、集会後のデモ行進では「憲法違反の大軍拡反対」「憲法を守り、生かして平和を守ろう」とアピールしました。

集会では、高橋千鶴子日本共産党衆院議員、今村修社会民主党県連代表が連帯あいさつを述べました。田名部匡代立憲民主党参院議員からはメッセージが寄せられました。

### 青森 戦争する国づくりやめよ！ 権力の横暴許さない！ とスタンディング 八戸市

戦争法廃止を求める三八連絡が呼びかけた八戸市内でのスタンディングに 28 人が参加。「戦争する国づくりやめよ」の横断幕や、「新たな戦前とんでもない」などのプラスターを掲げスタンディング行動を展開。「憲法は私たちのもの、これ以上の権力の横暴は許されない」などとリレートークで訴えました。

### 秋田 「安保3文書」の危険性とウソ学び、活動を交流

第 44 回平和憲法を守る県民集会が3日、秋田市でひらかれ 250 人が参加しました。「軍拡と改憲を許さず、憲法を守り生かそう！」とする県民アピールを採択しました。

集会の呼びかけは憲法改悪反対秋田県センター（虻川高範代表）。

集会では、講演「憲法で日本の安全と国民を守る一大軍拡の危険とデタラメ」（川田忠明日本平和委員会常任理事）とともに、自治労連秋田県本部の「反核ライダー」の活動と秋田県労働者学習協会・民青同盟秋田県委員会・秋田市平和委員会共催の「憲法カフェ」の活動について報告がされました。

鈴木俊夫元湯沢市長（東北6県市町村長9条の会・全国首長9条の会共同代表）が同9条の会の「『安保3文書』閣議決定に抗議し撤回を求める声明」を紹介しました。

### 岩手 憲法の力確認 知事からメッセージ

9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会は3日、盛岡市で憲法集会を開催しました。インターネットでの視聴ふくめ 240 人が参加しました。

吉田瑞彦日弁連前副会長が「憲法が持つ力」をテーマに講演しました。

横沢高德立憲民主党参院議員、斉藤信日本共産党県議、久保孝喜社民党県連合副代表が来賓あいさつ、達増拓也県知事からはメッセージが寄せられました。

集会後、参加者はプラカードやこいのぼりを手に、市内を行進しました。

### 宮城 軍拡でなく「安心供与」・戦争回避の外交を 憲法活かす県民集会

3日、宮城県では「憲法を活（い）かす県民集会」が仙台国際センターで開かれ、800 人が参加しました。集会後、「大軍拡、大増税を許さないぞ」「敵基地攻撃能力はいらぬぞ」と訴え、連休でにぎわう一番町商店街などをデモ行進しました。

みやぎ9条懇話会（呼びかけ人会議）と宮城憲法会議、憲法をまもる市民委員会、県護憲平和センターの4団体が主催。

元内閣官房副長官補の柳沢協二氏が「軍拡ではなく、戦争回避の外交を」をテーマに

講演しました。

柳沢氏は、「戦争への不安」があおられ、「戦争に備える」議論に世論は流されているが、戦争の実態と被害が国民には知らされず、戦争回避の視点も欠けていると指摘。恐怖を与える「抑止力」では軍拡競争を招くと批判し、「安心供与」の外交で戦争の動機をなくすことを強調するとともに、「戦争をしない国であり続けることを、世代を超えて共感を広げよう」と呼びかけました。

### **山形** 中村哲医師「憲法9条の実行を！」 映画、映画監督の講演から学ぶ

9条改憲NO！やまがた県民の会（高木紘一・渡部貴之共同代表）は3日、「憲法記念日 映画と講演のつどい」を山形市で開催、250人が参加しました。

つどいでは、中村哲医師を描いたドキュメント映画「荒野に希望の灯をともす」の上映、監督の谷津賢二さんが講演しました。

谷津さんは、中村医師が生前、「2000万人の犠牲の上に憲法9条があり、その理想に到達するために『憲法9条を実行せよ』と語ったことを紹介しました。

### **福島** 大軍拡に反対し、暮らしを守る政治を！ 第43回憲法を考えるつどい

第43回憲法を考えるつどいが3日、福島市でひらかれました。主催は同つどい実行委員会。

実行委員会に参加する女性団体や大学教員、農民団体などの各団体代表が、各層の実態をリアルに語りつつ、安保3文書、大軍拡に反対し、いのちと暮らしを守る活動について報告しました。

つどいでは、経済研究者の佐々木憲昭さん（元日本共産党衆院議員）が「大軍拡が暮らしと経済に何をもたらすか」をテーマに講演しました。

「大軍拡に反対し、暮らしを守る政治を求めるアピール」を採択しました。

### **茨城** 「敵基地攻撃」ノー！ 9条生かした平和外交を 憲法フェスティバル

水戸市で3日、憲法フェスティバルが開かれ、参加者は「憲法9条を生かした平和外交を」と「岸田政権の軍拡ストップ」をアピールしました。憲法フェスティバル実行委員会（代表・田村武夫茨城大名誉教授）が主催。

田村氏はあいさつで、政府がめざす敵基地攻撃能力の保有は9条を死に追いやるものだとして改憲阻止を訴え、「戦後77年間、戦争をしなかった日本国民の実行力と勇氣に信頼をもって団結しよう」と呼びかけました。

日弁連憲法問題対策副本部長の伊藤真弁護士が講演しました。伊藤氏は、ロシアのウクライナ侵略にふれ、「一度始まればお互い勝つまでやめられないのが戦争だ」「戦争の回避へいかに知恵と時間をかけるかが重要だ」と力説。日本国憲法が話し合いで紛争を解決する国連憲章の理念を反映しているとし、「9条があったからこそ戦後の日本は平和で自由だった。学び考え行動する『自立した市民』になり、今こそ9条に大きな力を吹き込もう」と強調しました。

### **千葉** 膨大な犠牲うむ軍備拡張許さない 4年ぶりの憲法の集い

憲法を守り・いかす千葉県共同センターと千葉県憲法会議が3日、千葉市内で4年ぶりとなる憲法記念日の集いを開催、400人が参加しました。

明治大学の山田朗教授が講演し、「日露戦争前、第1次世界大戦後など過去に3回、国家予算の40%以上が軍事費に投入された。その背景に軍事同盟がある。急激な軍備拡張の結末は、日露戦争での10万人など膨大な人的犠牲と財政的負担だ」と指摘しました。

岸田政権の大軍拡について、「長射程ミサイル導入などの『敵基地攻撃能力』保有は、国際的な軍拡の連鎖を生む」「外敵のみならず、学問・思想・教育への介入や統制など戦争に反対する『内敵』に備える『思想戦』をもたらす」と警告。9条を支えてきた平和主義の継承、市民が軍事を監視する力を強め、隣国との付き合い方に知恵をしぼることが重要だと強調しました。

山添拓日本共産党参院議員は国会報告で、「世論と運動を高め市民と野党の共闘で、改憲をおおる大合唱を止めよう」と呼びかけました。

3団体が大軍拡・大増税阻止の取り組みを報告。千葉県憲法会議の田村陽平事務局長が「ウクライナ戦争から学ぶべきは、軍拡ではなく戦争を起こさない努力だ」と述べま

した。

### 千葉 かしわ市民憲法集会に 500 人

千葉県柏市で 5 日、第 14 回かしわ市民憲法集会が取り組みられました。主催は同集会実行委員会と柏市民憲法連絡会。500 人が参加しました。

集会では菱山南帆子さん（許すな!憲法改悪・市民連絡会事務局長、戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会運営委員）が講演しました。

菱山さんは、岸田政権の大軍拡と関連悪法成立の連続強行、改憲勢力による憲法審査会での改憲案のすり合わせの策動など、岸田政権の下で進められている悪政を批判、青年への教育や思想攻撃、インターネット動画配信による誘導攻撃の実態を紹介、「自らの差別心と向き合い、共感と傾聴の姿勢で、だれでも声を上げやすい社会をつくるのが大人の責任、明るく楽しい宣伝で運動をひろげよう」と呼びかけました。

集会には、柏市を含む衆院千葉 8 区から市民と野党の共同で選出されている本庄知史衆院議員（立憲民主党所属）も参加しました。

### 東京 岸田軍拡ストップ 憲法守りあらたな戦前にさせない！ 2万 5000 人

東京都江東区・有明防災公園で開かれた「あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023 憲法大集会」には、新型コロナ流行以降で最大規模となる 2 万 5000 人が参加しました。集会終了後、2 コースでパレードしました。

主催は「平和といのちと人権を！5・3 憲法集会実行委員会」。共催団体として戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会、9 条改憲 NO！全国市民アクション、戦争をさせない 1000 人委員会、憲法 9 条を壊すな！実行委員会、戦争する国づくりストップ！憲法をまもり・いかす共同センター、九条の会が取り組みました。

実行委員会の高田健さん（総がかり行動実行委員会共同代表）は主催者あいさつで、岸田政権による敵基地攻撃能力の保有を明記した安保 3 文書などの戦争の準備を糾弾、やるべきは平和の準備であると述べ、岸田首相が任期中の改憲を目指すとしたことについて、全国でたたかい、阻止しようと呼びかけました。

立憲民主党の西村智奈美代表代行、日本共産党の志位和夫委員長、れいわ新選組の榊原万里共同代表、社会民主党の福島瑞穂党首があいさつしました（沖縄の風からはメッセージ）。政党代表の 4 人は壇上でプラカードを掲げ、会場の参加者と一緒にコールし、「あらたな戦前にさせない」「敵基地攻撃能力いらない」「守ろう！平和・いのち・くらし」などとアピールしました。



（写真は田中章史さん）

清末愛砂さん（室蘭工業大学教授・憲法学）、泉川友樹さん（沖縄大学地域研究所特別研究員）、東村アキコさん（漫画家＝ビデオメッセージ）がメインスピーチを行いました。

市民連合の佐々木寛さん（市民連合@新潟共同代表）があいさつ。

市民のリレートークは、入管法問題について山岸素子さん（移住者と連帯する全国ネットワーク事務局長）、馬毛島の軍事基地問題について前園美子さん（馬毛島への米軍施設に反対する市民・団体連絡会副会長）、性差別問題について宮子あずささん（看護師）の 3 人が行いました。

集会アピールが採択されました。〔別掲〕

小田川義和さん（総がかり行動実行委員会共同代表）が行動提起を行いました。

集会に先立ち会場では、「自由に話そうトークイベント」、「#ウイメンズアクション Shall We デモ?」、「こども憲法広場」、「Human Music ライブ」の 4 つのミニステージ企画が取り組みられました。

またメインステージのオープニングでは、死刑廃止イベントや選挙・民主主義などを問う動画を作成している Japanese FUNK-METAL-ROCK バンドの The Bassons (ベーソンス) が登壇、リズムミュージックをバックに、ボーカルのベースレーダーさんが憲法とは？民主主義とは？と問いかけ、語り歌い盛り上げました。

**東京** 「攻められたら？」に対する、政策提言「戦争を回避せよ」を学ぶ 日野市  
「戦争はダメです！共同アクションひの」は2日、猿田佐世弁護士（新外交イニシアティブ代表）の講演会を日野市で開催しました。会場いっぱいの180人が参加しました。

講演会の目的について、榊原和子さん（日野九条の会）が開会あいさつで、「戦争はいやだけど、日本が攻められたらどうするの？」「抑止力は必要では？」などの声が宣伝の中でも出されるとして、伝える力を持つと提起しました。

猿田さんは、岸田政権の敵基地攻撃能力保有への対案として、政策提言「戦争を回避せよ」を昨年11月に発表したこと、そしてその内容として、軍事力による抑止は、相手の対抗策を呼び、無限の軍拡競争をもたらし、破滅的な結果を招くことになることと指摘、軍縮を世界レベルで働きかけ続けることが必要であることを強調しました。

**神奈川** 憲法9条守ろう！大軍拡、大増税反対の宣伝・署名行動 九条かながわの会

九条かながわの会は3日、桜木町駅前広場（横浜市中区）で「憲法9条を守ろう」と宣伝し、大軍拡、大増税反対の署名に取り組みました。

宣伝では、「太鼓集団荒武者」の迫力ある演奏と獅子舞も登場、注目されました。

岡田尚弁護士代表が「私たち主権者が声を上げればこの国は変わる」と呼びかけました。会の後藤仁敏、高橋由美両弁護士や、県平和委員会の菊谷節夫理事長、戦争体験者らがリレートーク。「神奈川のうたごえ」のメンバーも歌で参加しました。

2歳の子どもを連れた女性が「統一地方選では子育て支援を重視しましたが、平和を守る人を選ばなければ。今日が憲法記念日だと意識していなかったけど、偶然通ってよかった」、小学6年のラチャ・ババニャさんは「学校で勉強して日本は絶対に戦争をしないと知った。憲法は変えないでほしい」などの感想が寄せられました。

**神奈川** 「安保3文書」の危険性を共有、たたかひの決意 横浜でつどい・デモ行進

横浜市神奈川区の神奈川公会堂で3日、「神奈川憲法会議5・3県民のつどい」が開かれ、神戸女学院大学名誉教授の石川康宏さんが「安保3文書改訂が招くもの～岸田軍拡のたくらみを暴く」をテーマに講演しました。

石川氏は、戦争になったら「報復攻撃」「原発からの放射性物質」「エネルギーや食料枯渇」などで日本は戦争に耐えられないと指摘。戦争を起こさないようどうするかが大切だと強調、「安保3文書」が平和も暮らしも破壊することを豊富な資料を使って説明しました。一方国内外で、国連憲章の原則に従った平和の大きな流れが起きていることを紹介。「危険さがわかれば世論は変わる。『安保3文書』を撤回させ、憲法を生かす国づくりを」と呼びかけました。

長谷川拓也弁護士（自由法曹団神奈川支部）が、横浜ノース・ドックの出撃拠点化について講演しました。

集会後にデモ行進で市民に訴えました。

**栃木** 憲法を身近に一八法亭みややっこさんの落語公演「落語で憲法」

九条の会栃木と栃木革新懇は3日、八法亭みややっこ（飯田美弥子弁護士）さんを招いた憲法記念日集会「落語で憲法」を開きました。

弁護士活動をしなごら週末は落語家として活動するみややっこさんは、「漢字が並びとみんな身構える」と笑いを誘い、「歴史に学び、未来を志向する日本国憲法」と題して公演。

聖徳太子の「17条の憲法」や「大日本帝国憲法」「教育勅語」をもとに、天皇主権や女性は無能力者とされた歴史を振り返りました。日本国憲法の理念は13条の個人の尊厳と幸福追求権にあり、一人ひとりの人権を保障するために国家は存在するという立憲主義は、国民主権の立場をとると説明。平和であることも個人の尊厳と幸福追求に欠かせないと平和主義を宣言したのが日本国憲法の先駆性、などと強調。自民党の改憲草案は、国のために国民が存在し、人権が公益や秩序のために制約されるものと批判。

参加者からは「憲法を身近に感じた。面白くてあつという間だった」などの感想が寄せられました。

### **山梨** 国民を守る宝日本国憲法を守ろう 甲府駅前憲法集会

甲府市のJR甲府駅北口広場で3日、「5・3山梨憲法集会」が開かれ、県内各地から約300人が参加し、「憲法9条を守ろう」「大軍拡NO!」などのプラカードを掲げ改憲阻止をアピールしました。

主催者あいさつで椎名慎太郎山梨学院大学名誉教授は、「9条改憲は必要ないという世論は多い。岸田政権による軍事費倍増の動きに対して、世界に誇るべき平和憲法を一層輝かせていくためにみんなで力を合わせよう」と呼びかけました。

立憲民主党の県代表、日本共産党の県議、社会民主党の県代表らが参加。立憲民主党の小沢雅仁参院議員があいさつし、中島克仁衆院議員がメッセージを寄せました。

看護師の女性が「命に寄り添う仕事のなかで戦争の報道を見るたびに胸が苦しくなる。憲法は国民を守る宝。みんなで憲法を守ろう」と訴えるなど市民4人がリレートークを行いました。

集会では「憲法を守りいかす」アピールが採択されました。集会後参加者は、市内中心部をパレードしました。

### **長野** 平和を考えるつどい「本気で戦争とめよう！」 松本市

長野県の「本気でとめる戦争！中信市民連合」は3日、松本市で「軍事増強と平和を考える市民のつどい」を開き、約150人が参加しました。

主催者あいさつで松本猛共同代表は「朝鮮戦争などに参加しなかった日本の『専守防衛』の立場が変えられようとしている、憲法を守る輪を広げよう」と呼びかけました。

立憲民主党の下条みつ衆院議員、日本共産党の藤野保史前衆院議員、社会民主党の中川博司県議、八木聡・緑の党信州共同代表も参加、改憲阻止への連帯あいさつと決意を語りました。あいさつでは「今必要なのは平和の準備、憲法を変えるのではなく生かす政治」であることなどが強調されました。

又坂常人・信州大学名誉教授、鶴飼哲・一橋大学名誉教授、小出裕章・元京都大学原子炉実験所助教の3氏が、「安保3文書」など岸田政権の大軍拡問題で基調報告しました。

つどいに先立ち午前中には、中信市民連合主催の石井暁・共同通信編集委員による記念講演会が『戦争ができる国』から『戦争をする国』へ」をテーマにして開かれました。

### **新潟** 憲法いかし外交追求の政府を 万代橋で大宣伝行動

9条改憲NO!全国市民アクション@新潟は3日、新潟市万代シティで「新たな戦前にさせない!憲法記念日大行動」を実施、180人以上が参加し、横断幕やプラカードを掲げ訴えました。日本共産党、社会民主党、緑・にいがたの代表が連帯あいさつしました。

マイクを握った新潟県憲法共同センターの藤田孝一共同代表は、岸田政権が国民へ説明もせず安保3文書で「専守防衛」を投げ捨て、南西諸島の自衛隊基地強化など戦争する国づくりを強めているとし、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起」きないように決意した憲法前文の精神を、政府自らが壊すやり方は許されないと批判、憲法を学び平和を追求しようと訴えました。

新潟県平和運動センターの齋藤悦男議長は、政治の役割は物価高対策や生活の再建であり軍拡ではないと指摘し、台湾有事など危機をあおるだけの政治でなく、戦争回避へ平和外交を追求する政府を市民と野党の共闘で実現しようと呼びかけました。

### **石川** 沖縄と日本全土のミサイル基地化は深刻、全基地の撤去を! 金沢で県民集会

憲法改悪NO!市民アクションいしかわは3日、金沢市で「憲法施行76周年記念石川県民集会」開催、470人が参加しました。

岸田政権の大軍拡・大増税を糾弾し、武力で平和はつくれない、とする集会アピールを採択、集会終了後金沢駅に向けパレードを行いました。

集会では、「ミサイル基地いらぬ宮古島住民連絡会」の共同代表・清水早子さんが記念講演を行いました。主催者あいさつに立った岩淵正明弁護士は、ミサイル基地化は

地元の自衛隊小松基地を含め、日本全土に及んでいると指摘しました。

立憲民主党の荒井敦志青年局長、日本共産党の佐藤正幸県議、社民党の森本義久県議があいさつしました。

### **富山** 「大軍拡は平和的生存権、生存権を否定」「外交こそ大事」 清末愛砂さん

日本国憲法をまもる富山の会と富山県平和運動センターは共同で2日、富山市内で講演会を開催しました。

室蘭工業大学大学院教授の清末愛砂さんがオンラインで講演しました。テーマは「軍事に依拠する国のなれの果て—明文・解釈改憲と私たちの生活」。

清末教授は、安倍政権以降の安保3文書に至る大軍拡への流れは、「新たな戦前」（タモリさん）ともいうべき戦時体制であること。今日、解釈と明文両面の改憲問題とたたかうことが大事になっていることを指摘しました。また、安保3文書による大軍拡は、憲法の平和的生存権や生存権をリアルに否定するものであること、日本列島の軍事的防衛は不可能であり、外交こそ何より重要であることを強調しました。

講演会には120人が参加し、平和か戦争かが問われる中で、憲法9条を生かした平和の実現をと思いを新たにしました。

### **福井** 「岸田政権、安保3文書で戦時の体制にまっしぐら」 斎藤貴男さんが講演

「憲法を守り育てる集会」が3日、福井市アオッサホールで開催されました。集会には250人が参加しました。主催は戦争する国づくり反対！福井総がかりアクション。

ジャーナリストの斎藤貴男さんが「岸田政権の正体とメディア」をテーマに講演しました。斎藤さんは、岸田政権の「安保3文書」について、日本は戦時体制に向けまっしぐら、台湾有事で日本が前面に立たされる可能性、アメリカの世界戦略に動員される危険性を指摘、権力とマスコミの癒着状況を告発しました。

### **静岡** 「朝日」「毎日」に意見広告 5120人が協力

静岡県内の九条の会が取り組んだ意見広告が、3日付の県内の朝日新聞と毎日新聞の各1ページ全面を使って掲載されました。「戦争の準備ではなく、平和の行動を！」「—もう戦争はしません！私たちは『憲法9条』で誓いました—」などの大見出し、9条全文を収録し、協力者の名前を書き込んだ意見広告です。

この運動は今年で13回目、県内78の九条の会が市民に呼び掛けたもので、5120人余の人々が参加・協力しています。

### **静岡** 元自衛官が9条の意義語り交流

静岡市で3日、静岡県憲法会議が呼びかけた「憲法を考える市民の集い」が開催され、200人が参加しました。

集いでは、「ベテランズ・フォー・ピース（平和を求める退役軍人の会）」・元海上自衛官の形川健一さんが話し、参加者の多様な質問に答えました。形川さんは、現役時代は憲法について、深く考えたことはなかったが、退職後運動にかかわる中で大切に思うようになったこと、43兆円の防衛予算について、現役の時は、下から上に「必要だから」と予算要望をしていたが、今は逆転し、日本は言われるままに米国の兵器を買うお得意様になっている、と告発しました。

### **愛知** 総がかり行動 300人のデモ

「憲法をくらしと政治にいかす 改憲NO！あいち総がかり行動」は3日、名古屋市で「止めよう！岸田軍拡・大增税」の横断幕を掲げてデモ行進しました。参加した約300人は「ストップ敵基地攻撃能力」「改憲反対」のプラカードなどを持ってアピールしました。

出発前の集会では、START（外国人労働者・難民と共に歩む会）のメンバーが、「『専守防衛』から転換し軍拡と増税で侵略戦争の時代に戻ろうとする岸田政権の動きはとんでもない。入管法改定案もまさしくその動きの中で多民族に対する差別や排外主義を助長するものだ。差別・抑圧のない社会の実現に向けてみなさんと力を合わせて声を上げたい」と訴えました。

参加者からは、「憲法を変えれば戦争になり、すべてが壊れてしまう。国会では改憲勢力が3分の2以上の議席を占め、一刻の猶予もない危険な状況だと改めて街頭でアピ

ールしたい」、「敵基地攻撃能力の保有は本当にもう戦前のような感じがする。反対の意思を示したい」などの声が寄せられています。

### **愛知** 多様性の社会を 安田菜津紀さん講演、ナターシャ・グジーさんコンサート

愛知憲法会議は3日、「憲法施行 76 周年市民のつどい『憲法と生きる—多様性のある社会へ』」を名古屋市で開き、オンラインも含め約 1400 人が参加しました。

愛知県弁護士会の小川淳会長が連帯と激励のあいさつ。

フォトジャーナリストの安田菜津紀さんが講演しました。

安田さんは、中学2年のときに亡くなった父親が死後、在日コリアンだったことを知ったと述べ、「今の日本を見れば、なぜ語らなかったか、語れなかったのかわかる」、「足元のヘイトクライムや言葉の暴力を見過ごせば、いずれ身体的暴力や争いにつながる」と指摘し、「入管法改定は、外国人の管理・監視を強化し、差別を法制化するもの。声を上げ、歯止めをかけよう」と多様性ある社会の大切さを訴えました。

ウクライナ出身のナターシャ・グジーさんが、透き通った歌声とバンドゥーラの演奏で「わがキエフ」「鳥の歌」などを歌い上げ、大きな拍手が送られました。

### **愛知** 「9条守って」が多数 若者 100人アンケート

愛知県平和委員会青年・学生部は3日、毎年続けている憲法や平和についての「若者 100人アンケート」を同部のメンバー10人が今年も、名古屋駅前で行いました。

呼びかけに答え協力し、回答したのは12歳から45歳までの81人（平均年齢20歳）。

戦争放棄をうたう憲法9条1項について、「変える」は24.7%、「変えるべきでない」は45.7%、「わからない」29.6%。戦力不保持をうたう憲法9条2項について、「変えるべき」27.2%、「変えるべきでない」30.9%、「わからない」40.7%。憲法改正に「賛成」は28.4%、「反対」は22.2%、「わからない」は49.4%でした。

岸田政権の軍事費増計画については、「賛成」54.3%、「反対」35.8%、「軍拡財源を増税で」については、「賛成」23.5%、「反対」69.1%でした。

### **岐阜** 「戦争せず改憲策動阻止の戦後の歴史と運動」に確信を 渡辺治さんが講演

3日、「憲法施行 76 周年岐阜講演会」が3日、長良川国際会議場で開かれ 215 人が参加しました。

講演会では渡辺治一橋大学名誉教授・九条の会事務局が「岸田政権と改憲問題の現段階（軍拡と改憲で日本とアジアの平和は実現するのか）」をテーマに講演しました。

渡辺さんは、安保3文書が、米軍と一体化して敵基地攻撃能力の発動があることを想定しており、集団的自衛権行使を担える自衛隊にするには大軍拡を必要としていることを指摘、日米同盟の攻守同盟化とブロック外交への大転換、大軍拡を賄うための増税、暮らし破壊の危険性を明らかにしました。

自民、公明、維新、国民による改憲連合が「緊急事態条項」を突破口に衆院憲法審査会を動かし、改憲に走っているが、軍拡と改憲で平和は守れないことを説明。戦後78年、戦争せずに幾度の改憲策動を阻止してきたことに確信を持ち、岸田大軍拡ストップの声を上げ続けよう、と呼びかけました。

同講演会は岐阜県憲法会議、憲法9条を守る岐阜県共同センターがよびかけたものです。

### **三重** 9条は死なず、自治体・市民が役割果たし平和実現を 県民のつどい

津市の三重県総合文化センターで3日、「5・3 憲法を考える三重県民のつどい」が開かれました。100人余が参加しました。

つどいでは、君島東彦立命館大学教授・国際平和ミュージアム館長が、「新しい護憲平和論のかたち～安保3文書改訂を契機に考える」と題した講演を行いました。君島さんは、「今年の安保3文書による敵基地攻撃能力保有を含めこれまで何度も重大な解釈改憲を重ねてきたが、9条は決して死んでいない、だからこそ改憲派は9条攻撃を続けている」と指摘。9条と憲法の世界の意義を多面的にとらえることの重要性を説きました。そして、平和の実現のためには、仮想敵を持つ軍事同盟路線ではなく、共通の安全保障体制の構築が大事であり、そのためには自治体や市民が大きな役割を果たさなければならないと提起しました。



つどいの主催は三重県憲法会議。

### **奈 良** 沖縄基地問題、安保3文書 笑いネタで岸田政権告発

憲法記念日に「戦争に近づく今をコメディで笑う！」をコンセプトに、せやろがいおじさん（お笑い芸人・ユーチューバー）のトークライブが3日、奈良市で開催されました。県内の9条の会など多数の市民団体の有志らが主催、会場満席の850人が参加しました。

せやろがいおじさんは、沖縄の基地問題や「核抑止力」論、差別・ヘイト問題などを笑いネタにして口演。「本来、憲法は権力側を縛るものだが、自民党の改憲案にある『緊急事態条項』は、逆に権力側が国民を縛るようになる非常に危険なものだ」と強調。「戦争は最大の人権侵害。9条を変えるのはすごく嫌」「『反撃能力』は憲法9条、専守防衛に反する」などと、さまざまな問題を聴衆といっしょに考えるように語り、会場を拍手と爆笑の渦に包み込みました。

トリオ・コウの器楽演奏や、岡崎邦夫さんによる義父の従軍手帳の朗読、奈良蟻の合唱団のコーラスも披露されました。

参加者の一人は、「国（政府）がするおかしいこと、許せないことを怒るだけじゃなくて笑いにするのが本当にすごい」と感想を述べています。

トークライブ終了後、パレードが行われました。

### **滋 賀** 大軍拡、改憲策動を草の根の市民の声と運動で阻止しよう 大津市

滋賀・九条の会は7日、大津市で「第17回滋賀・憲法のつどい」を開きました。つどいには150人が参加しました。

つどいでは、渡辺治一橋大学名誉教授（九条の会事務局）が講演しました。

渡辺さんは、安保3文書の改定、敵基地攻撃能力保有など大軍拡の狙いと危険性を詳しく説明するとともに、戦後の平和は軍事力や軍事同盟の強化でできたものではなく、憲法9条の力によってもたらされたと強調、大軍拡とそれに連動する改憲策動を市民の力で何としても阻止しよう、それはアジアと日本の平和に大きく貢献することになる、と九条の会や草の根からの市民の軍拡反対の声と運動で改憲策動を阻止しようと訴えました。

### **滋 賀** 「戦前」招く米従属 憲法の意義に改めて確信

「9条改憲NO！市民アクション・滋賀」は3日、16回目となる「9条改憲を許さない県民集会」を大津市で開き、200人を超える市民が参加しました。

土井裕明共同代表・弁護士は、岸田政権の大軍拡・大增税路線について「日本国憲法がそもそも想定している事態なのか。軍拡競争を許すものなのかということのを改めて考えていきたい」と述べました。

京都精華大学准教授の白井聡氏が講演。テーマは「なぜ日本政府は米国に従属し続けるのかー今を戦前にしないために」でした。

白井さんは『台湾有事』が起き、アメリカが参戦するのであれば、日本は自動参戦になり、日本にある米軍基地が攻撃される。最悪の場合は核戦争になると指摘。「憲法9条が戦後長らく、対米従属に対するストッパーとして機能してきた」と述べ、憲法9条がないがしろにされているもとの、新たなたたかいを考えていかなければならないと提起しました。

### **京 都** 自由を次の世代に 円山音楽堂で憲法集会2000人

憲法9条京都の会と「9条改憲NO！全国市民アクション・京都」が共催する「憲法集会」が3日、円山公園音楽堂（京都市東山区）で開かれ、2000人が参加しました。

集会終了後参加者は、観光客でにぎわう繁華街をデモ行進しました。

ジャーナリストの末浪靖司氏が講演し、アメリカの世界戦略にそった安保3文書や改憲の動きを批判し、「9条をめぐる情勢は重大。力を合わせて憲法を守ろう」と話しました。

日本共産党、社民党京都府連、新社会党京都府本部、れいわ新選組からあいさつがあり、大軍拡・大增税の撤回を求める署名をさらに広げることがよびかけられました。

参加者からは、「43兆円も軍事費に使えば、民生費切り捨て、増税など自分たちにしわ寄せがくる。おとなの責任とは、次の世代を戦争に行かせる日本でなく、自由にした

いことができる日本を残していくこと。自分たちの手で平和を守っていきたい」などの感想が寄せられました。

## **大阪** 「輝け憲法！平和といのちと人権と！おおさか総がかり憲法集会」5000人

大阪では3日、大阪市北区の扇町公園で「輝け憲法！平和といのちと人権と！ 5・3おおさか総がかり憲法集会」（主催＝おおさか総がかり行動実行委員会）が開かれ、5000人が参加しました。

集会終了後、参加者は市内をパレードしました。

新外交イニシアティブ（ND）代表の猿田佐世弁護士がゲストスピーチを行いました。猿田さんは、閣議決定された安保3文書が国際法違反や違憲状態だとし、「憲法9条は今もなお強いパワーがある。この平和運動を若い世代につなげよう」と訴えました。

立憲民主党の森山浩行衆院議員、日本共産党の宮本岳志衆院議員、社民党の大橋裕子参院議員、れいわ新選組の大石晃子衆院議員があいさつしました。

集会は、三味線とギターのボーカルデュオ「アカリトバリ」による演奏で開会し、各分野の市民がリレートーク。参加者全員で「とめよう大軍拡」「いかそう憲法」のプラカードを一せいに掲げてアピールしました。

## **大阪** 笑いと歌で平和を語りあい、誓いあう 「芸人9条の会」大阪公演

「歌って・笑って・守ろう・平和！」一。落語家やコメディアンたちでつくる「芸人9条の会」主催の大阪公演（九条の会・おおさか後援）が5日、大阪市内で開催されました。

芸人9条の会は、笑いを通じて平和の大切さを訴えようと2015年に東京・浅草で旗揚げし、東京や大阪で公演を続けています。

この日の出演は、笑福亭竹林、桂鹿えもん、おしどり、露の新治、オオタスセリ、古今亭菊千代、桂文福、松元ヒロ、パギヤん（趙博）のみなさん。落語や漫談、相撲甚句、歌などを披露しました。

ゲストの韓国伝統芸術院「駄舞楽」（ダムアッ）が舞踊を披露。ちんどん通信社と歌手の青木美香子さんが「この素晴らしき世界」を演奏しました。

600人の客席が満席となった会場では笑い拍手が絶えませんでした。

## **大阪** 「戦争」展開催 伊波洋一参院議員が講演 岸田軍拡・安保3文書を告発

「アジアから問われる日本の戦争」展が5～6日、大阪市北区のエル・おおさかで開かれました。日本の侵略戦争と植民地支配、現在進行中の戦争準備について、約30の市民団体が豊富な資料や写真を展示しました。豊中女性史や「ピース大阪」から撤去された加害の展示、朝鮮学校の教育闘争、大阪城にあるこま犬の物語など大阪ならではの展示を見ようと、多くの市民が来場しました。

5日には「沖縄の風」の伊波洋一参院議員が講演しました。伊波氏は、「岸田軍拡・安保3文書」は、アメリカの戦略で中国に対抗する敵基地攻撃能力の獲得を狙ったもので、日本全国を戦場にしかねないと指摘。「中国は敵」という論調が当たり前になってしまっているが、戦争準備ではなく、「過去に中国国民に重大な損害を与えたことを深く反省し、すべての紛争を平和的手段により解決し、武力や武力による威嚇に訴えない」と誓った日中共同声明、日中平和友好条約を大切にこそ日本の平和が守られると話しました。

## **大阪** 「9条守って」は大阪でも多数 若者100人アンケート

大阪平和委員会青年学生部と青年協議会は3日、大阪市天王寺駅前「5・3若者100人に聞く憲法アンケート」を実施しました。2014年の初回から8回目の行動です。回答は12歳から36歳の104人（平均年齢17歳）から寄せられました。

「憲法は変えるべきか」の問いには「わからない」が63%を占めました。

一方戦争放棄、戦力不保持を定めた憲法9条については「変えるべき」9%、「かえるべきでない」57%の結果となりました。

また、岸田政権による軍事費2倍化については賛否5割で拮抗。「増税による軍事費の確保」には「反対」73%と「賛成」16%を大きく上回りました。

## **和歌山** 憲法記念日宣伝行動で市民、議員ら次々訴え

和歌山市

憲法 9 条を守る和歌山弁護士会の会、戦争をさせない和歌山委員会、憲法 9 条を守るわかやま県民の会が呼びかけた「憲法記念日宣伝行動」が 3 日、JR 和歌山駅前前で展開されました。行動には約 100 人が参加し、横断幕やボードを掲げアピールしました。

行動では、和歌山県地評の琴浦竜彦議長、弁護士会の会豊田泰史弁護士、和歌山県平和委員会の伊藤宏代代表理事、憲法 9 条を守るわかやま県民の会の坂本文博代表運営委員、戦争させない和歌山委員会の裏野勝也代表らが発言しました。

立憲民主党の山本忠相和歌山市議、日本共産党の奥村規子和歌山県議、無所属の藤本眞利子県議が訴えました。

## **兵庫** 改憲ちょっと待てよ！の勇氣 共同の行動に 6500 人

「戦争させない、9 条壊すな！5・3兵庫憲法集会」が 3 日、神戸市中央区のみなのもり公園で開かれ、6500 人が参加しました。主催は、戦争をさせない 1000 人委員会・ひょうご、兵庫県憲法共同センター、9 条の心ネットワークでつくる「5・3 総がかり行動兵庫県実行委員会」。

俳優でエッセイストの松尾貴史さんがスピーチし、「一部の人がもうかるのが戦争であり軍事。何兆円も出してアメリカの型落ちの武器を買って、少子化対策は具体的な方策が何も出てこない。憲法に縛られるはずの人たちが憲法を変えるなど許してはいけない」と発言。「(改憲に)ちょっと待てよ、と勇氣を持って発言していただきたい」と呼びかけました。

主催者の一人である羽柴修弁護士はあいさつで、「反撃(敵基地攻撃)能力保有は他国に脅威を与え、専守防衛のタガを外すもの。9 条を守り、戦争させない。最後までがんばる」などと述べました。井坂信彦立憲民主党衆院議員が来賓あいさつし、第 25 代高校生平和大使の長富日向さんがアピールを読み上げました。

## **鳥取** 平和の願い羽ばたけー平和の鳥フェスティバル

「平和の鳥フェスティバル」が 3 日、鳥取駅前「風紋広場」で開かれました。子ども連れの家族ら約 100 人が参加し、「平和のメッセージカード」を付けた約 50 個の「はと風船」を大空に飛ばしました。

ゴスペルを歌うグループ「ゴスペルオーブ」が青空コンサートを開き、平和へのメッセージを込めて歌いました。

代表の小徳浩子さんは、九条の会呼びかけ人で作家の井上ひさしさんとの交流を紹介。「2008 年に米子市九条の会で井上先生が講演したとき、オープニングで『ひょっこりひょうたん島』を歌ったことをきっかけに井上先生に招かれ、東京、山形、仙台で公演した。先生が亡くなった後も山形でコロナ前の 19 年まで毎年続けてきた。今年 6 月に 4 年ぶりに公演する」と、「平和のために一緒に 9 条を守りたい」と話しました。

## **鳥取** 連続市民講座で「安保 3 文書」、「敵基地攻撃能力保有」をつかむ 鳥取市

鳥取市九条の会は 3 日、鳥取市で連続市民講座を開きました。藤田安一鳥取大学名誉教授が「防衛政策の大転換と『憲法改正』のゆくえ」をテーマに講演しました。

## **山口** 「戦争を未然に防ぐリアルな発想」「三位一体の構成」の日本国憲法に確信

山口市で 3 日、「憲法を守る山口集会」が開かれました。県憲法会議などでつくる実行委員会と「憲法を活(い)かす市民の会・やまぐち」の共催。約 130 人が参加しました。集会では、大軍拡などに対し、「あきらめない心と粘り強い行動、そして連帯」と呼びかける集会アピールを採択しました。

河上暁弘広島市立大学広島平和研究所教授が、「憲法 9 条の理念と試練—ウクライナ危機後の日本と私たちの選択」と題して講演。河上教授は、憲法前文について「国民自身が政府に二度と戦争をさせない決意をした。政府を民主的にコントロールし、戦争させない政治、平和を作り出す外交の実現を」「国境を越えて国民同士が信頼のネットワークを作って戦争を未然に防ぐというリアルな発想に立っている」と強調。「民主主義がなくなれば平和はなくなる」と述べ、憲法の三大原則の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を「三位一体で、互いに支えあい、つながっているもの」と指摘しました。

同集会は 1981 年から憲法記念日に合わせ開かれてきたものです。

## **愛媛** 「沈黙を破ろう」(落合恵子さん)、「憲法は死んでいない」(井口周作さん)

今年で 19 回目の愛媛憲法集会が 3 日に松山市で開かれました。思想・信条、党派を超えて、昨年を大きく上回る 700 人が参加。作家で、クレヨンハウス主宰の落合恵子さんが「一市民であることの、尊厳と誇り…ブレーキングサイレンス・まずは、沈黙を破る」と題して講演しました。

井口秀作代表委員は、「『憲法の形骸化』『憲法 9 条の死』といわれる時があるが、憲法は形骸化もしていないし、死んでもいない。『憲法の死』があるとすれば、われわれが『もう憲法は役に立たない』とってしまった時だ」として、「今こそ『新しい戦前』にさせないために力を合わせていくことが必要だ」と呼びかけました。

永江孝子参院議員が来賓あいさつし、「憲法を守るためにみんなで声を上げていこう」と訴えました。

参加者は、「岸田政権の安保関連 3 文書改定の閣議決定は、国会軽視・国民無視であり、民主主義の破壊。二度と戦争をさせないため、各地域でがんばりましょう」との集会宣言を採択。

パレードでは「大軍拡・大増税反対」などと県民に訴えました。

### **福岡** 事実知り広げよう 望月衣塑子さんが講演

北九州市小倉北区では 3 日、「5・3 憲法集会」（同実行委員会主催）が開かれました。「『戦争国家』でよいですか？～安保三文書改定で消える『専守防衛』」をテーマに、東京新聞の望月衣塑子記者が講演しました。

望月記者は、「安保 3 文書」に基づき、膨れ上がる防衛費や、岸田内閣に加担するメディアの状況などについて、記者としての課題に「戦争したい人たちに戦争をさせないこと」とのべ、連帯し声をあげることの重要性を訴えました。

実行委員長の前田憲徳弁護士は、改憲を止めるため「事実を知り、周りに広げていこう」と呼びかけ。「Fridays For Future Fukuoka」の高田陽平さんが、環境問題は憲法の生存権に関わる問題であり、ともに声をあげようと呼びかけました。

500 人を超える市民らが会場を満員に埋めました。参加者の一人は、「改憲と軍拡反対の声をあげ続けていきたい」と決意を語っていました。

### **沖縄** 戦争回避の社会に ミサイル配備は命の問題 2023 憲法講演会 浦添市で

「2023 憲法講演会」（主催＝沖縄県憲法普及協議会、沖縄人権協会、日本科学者会議沖縄支部）が 3 日、浦添市で開かれました。映画「教育と愛国」を監督した毎日放送ディレクターの齊加尚代さんが、「新たな戦前を迎えないために～教育とメディアの意味を問い続けて」と題して講演しました。

齊加さんは、教育への政治の介入や圧力などの取材を通して「教員と記者は権力との関係で同じ立場に置かれていると痛感した」とし、教員と記者は民主主義社会の土台をつくっているとして「教員も記者も一歩間違えれば権力の代理人になって戦争を呼び寄せる流れに加担してしまう。そのことを常に意識して、戦争を遠ざけるような、誰もが自分らしく生きる社会にしていかなければいけない」と語りました。

「ミサイル配備から命を守るうるま市民の会」の宮城英和事務局長が配備反対の運動について報告し、「ミサイル配備は党派にかかわらず命の問題だ。何としても止めていく」と訴えました。

集会では最後に、武力によらない問題の解決をめざし、日本国憲法を未来に生かすことを求める「沖縄憲法宣言」を採択しました。

### **沖縄** 改憲反対、憲法生かして青年のいのちと暮らし守れの署名 若者たちが行動

那覇市の若者憲法集会安里・新都心（おもしろまち）実行委員会は 3 日、憲法記念日の行動として、「自民党政権による改憲に反対」「現行憲法を生かして、青年の命と暮らしを守る」賛同署名を呼びかけました。

「沖縄戦など戦争の痛苦の反省から戦争放棄を明記した憲法 9 条を生かし、平和をつくりましょう」「若い世代の声で戦争国家にさせないアクションを起こそう」と訴えました。

岸田政権の敵基地攻撃能力保有などの軍拡路線や、9 条への自衛隊明記、緊急事態条項創設といった改憲が狙われている動きを、パネルを使いながら説明して対話し、若者たちが次つぎ賛同署名をしました。

## あらたな戦前にさせない！守ろう 平和といのちとくらし、2023憲法大集会 アピール

2015年5月3日、憲法の改悪を許さず、憲法理念の実現を求めて、横浜臨港パークで多くの市民や労働者の参加のもとで開催した「5・3憲法集会」は、全国各地の市民の皆さんの共同行動とともに継続され、コロナ禍を乗り越え、今年で9回目になりました。

しかし、国際情勢をみると、少なからぬ国々と地域で戦火はやまず、昨今はわたしたちの日本でも「新たな戦前」という言葉が現実味をもって語られる時代になりました。

昨年2月、ロシアは2度にわたる世界大戦を経て人類が獲得した国連憲章の「国際紛争を平和的に解決する原則」に反し、ウクライナへの軍事侵攻を開始しました。このウクライナでの戦争は多くの人々の犠牲を伴いながら、1年以上をすぎてもいまなお収束の兆しがありません。ロシア軍の即時撤退・停戦が切実にのぞまれています。

しかし、逆に東アジアでもこれを口実とした軍事的緊張がつよまっています。

岸田文雄政権は昨年末、「台湾有事」などの危機を煽りながら、閣議決定のみで「安保3文書」採択を強行し、軍事費の対GDP比2%、5年間で43兆円という異常な軍拡を企て、従来からの「専守防衛」原則を投げ捨て、敵基地攻撃能力の保有と南西諸島のミサイル基地建設強化をめざすなど、日米同盟を支えに、戦争する国への道を突き進んでいます。

憲法9条にもとづいた外交努力による近隣諸国との友好共存関係の積み上げを怠り、列強との軍事同盟や軍事協力を強化し、軍事力を強化して緊張を煽り立て、いたずらに他国を誹謗し、戦争の危機をあおり立てるこの道は、日本を際限のない軍拡競争にひきづりこみ、やがて壊滅的な戦争の勃発を招きかねないものです。この道は日本がかつて歩んだ道に他なりません。

いま通常国会では、衆参両院で3分の2の議席を占めるに至った改憲勢力によって憲法審査会がひんぱんに開催され、憲法への自衛隊の明記や緊急事態条項の新設など、憲法改悪への議論が強引に進められています。

私たちは現在の審査会の論議が、戦争の危機を煽りながら進められている軍事大国化、「戦争する国」づくりの正当化のため、性急な憲法改定のみを求めるものとなり、憲法が示す平和・人権・民主主義の理念の実現を真剣に議論するものになっていないことを深く憂慮します。

本日、日本国憲法施行76周年にあたる5月3日、東京都防災公園に集まった私たち市民は、集会の総意において、平和を希求する全世界の民衆に連帯し、なかならず戦禍の下で苦しむウクライナやミャンマーなどの民衆に連帯して、憲法9条を掲げ世界の市民とともに反戦・平和の闘いに全力を挙げてとりくむことを、宣言します。

2023年5月3日

あらたな戦前にさせない！守ろう 平和といのちとくらし 2023憲法大集会

5月3日を中心とした全国各地の活動の情報をお寄せください。

(事務局)